

適正化方策の検討について

適正化方策の検討の概要

適正化方策の検討にあたっては、学校統合の検討の対象とした学校について、北部・中部・南部のブロック毎に区分し、各校毎の方策案を6ページの5.(1)に示す5つの視点で比較・評価して、適正化方策を選定したものです。

なお、40ページ以降のブロック毎の適正化方策案や解説図などの記載内容については以下のとおりです。



1. 適正化方策案

学校統合の検討対象とした学校に隣接する学校を、統合の相手校として設定した方策案を示すものです。

- ・方策案毎に区分し、統合校をどちらの学校敷地に設置するかを、アまたはイで分類しています。
- ・統合の相手校が適正規模の学校である場合には、検討の対象の学校に統合校を設置する方策案は検討除外としています。
- ・網掛けは、適正化方策に選定した方策案を示します。

2. 適正化方策案解説図

上記1の適正化方策案を図示したものです。

- ・で囲んだ学校は学校統合の検討の対象とした学校を示します。また、で囲んだ学校は適正規模の学校を示します。
- ・矢印は統合校をどちらの学校敷地に設置するかを示します。
- ・記号の網掛けは、適正化方策に選定した方策案を示します。

3. 小中学校位置図

各ブロック内の小学校・中学校の位置と校区を地図に表示するものです。

- ・太い実線は中学校区、点線は小学校区を示します。

4. 適正化方策案の検証評価

- ・各適正化方策案について、6ページの5.(1)に示す5つの視点での比較・評価における「特に有効な点」及び「問題点など」を示すとともに、総合評価をとりまとめたものです。
- ・太枠は、適正化方策に選定した方策案を示します。

* 「参考」について

各学校及び統合校の児童生徒数・学級数の将来推計を示すものです。

- ・網掛けは、小規模校又は大規模校に該当することを示します。
- ・H27の欄の()書きの数値は支援学級数及び支援学級の児童生徒数を示します。
- ・学級数及び児童生徒数は、平成33年度までは平成27年5月1日現在の幼児数・児童生徒数を基にした推計により、平成35年度以降は枚方市人口推計によるものです。

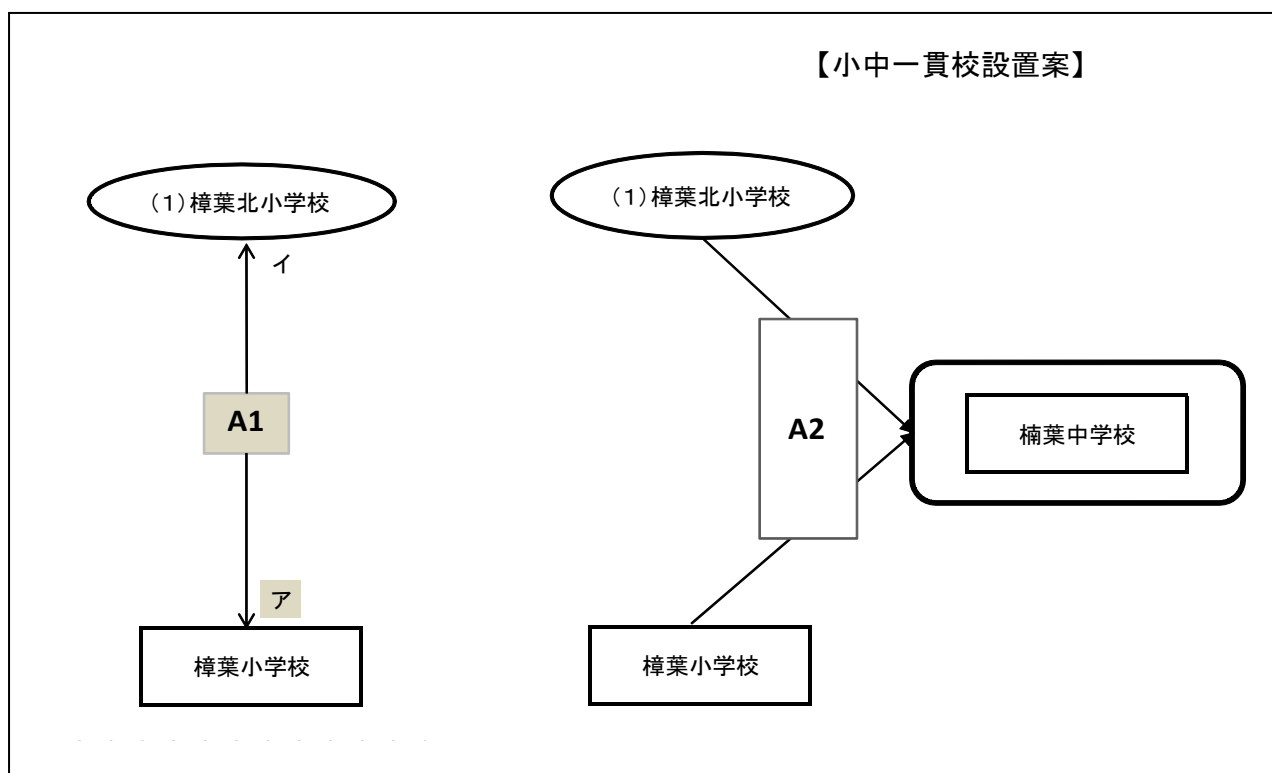
【北部ブロック】

1. 適正化方策案

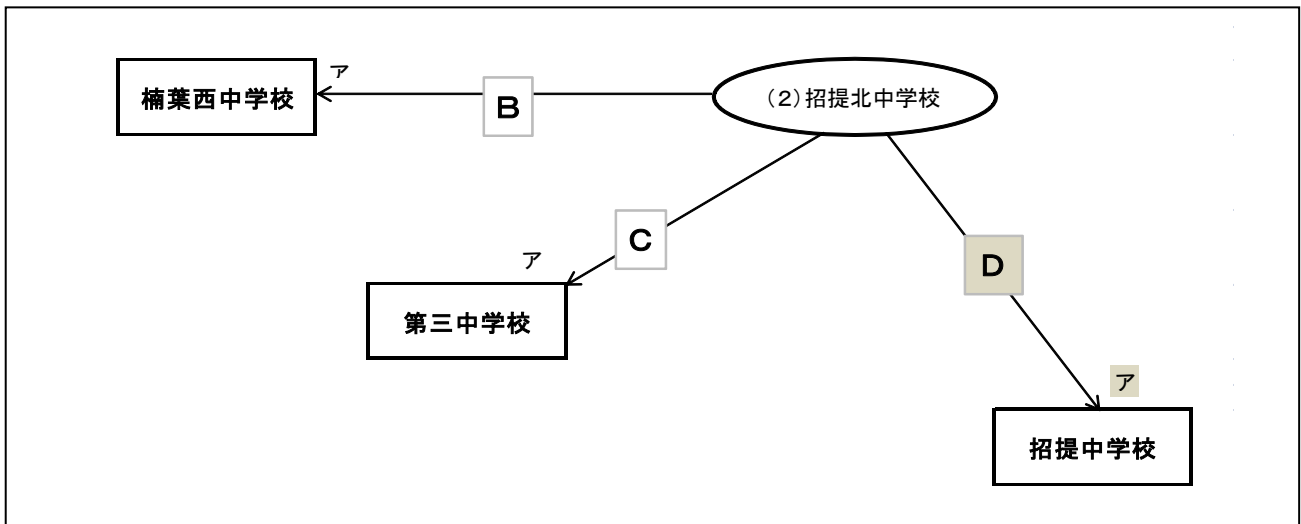
学校統合の 検討の対象校	方策 区分	方策案	備考
(1) 樟葉北小学校	A1	樟葉小学校と統合する。	
	ア	樟葉小学校敷地に統合校を設置する。	
	イ	樟葉北小学校敷地に統合校を設置する。	
(2) 招提北中学校	A2	樟葉小学校と統合し、楠葉中学校敷地に楠葉中学校を含めた小中一貫校を設置する。	
	B	楠葉西中学校と統合する。	
	ア	楠葉西中学校敷地に統合校を設置する。	
	イ	(招提北中学校敷地に統合校を設置する。)	* 検討除外
	C	第三中学校と統合する。	
	ア	第三中学校敷地に統合校を設置する。	
	イ	(招提北中学校敷地に統合校を設置する。)	* 検討除外
	D	招提中学校と統合する。	
	ア	招提中学校敷地に統合校を設置する。	
イ	(招提北中学校敷地に統合校を設置する。)	* 検討除外	

学校統合の検討対象とした学校に隣接する学校を、統合の相手校として設定した方策案を示すものです。
 ・方策案毎に区分し、統合校をどちらの学校敷地に設置するかを、アまたはイで分類しています。
 ・統合の相手校が適正規模の学校である場合には、検討の対象の学校に統合校を設置 する方策案は検討除外としています。
 ・網掛けは、適正化方策に選定した方策案を示します。

2. 適正化方策案解説図



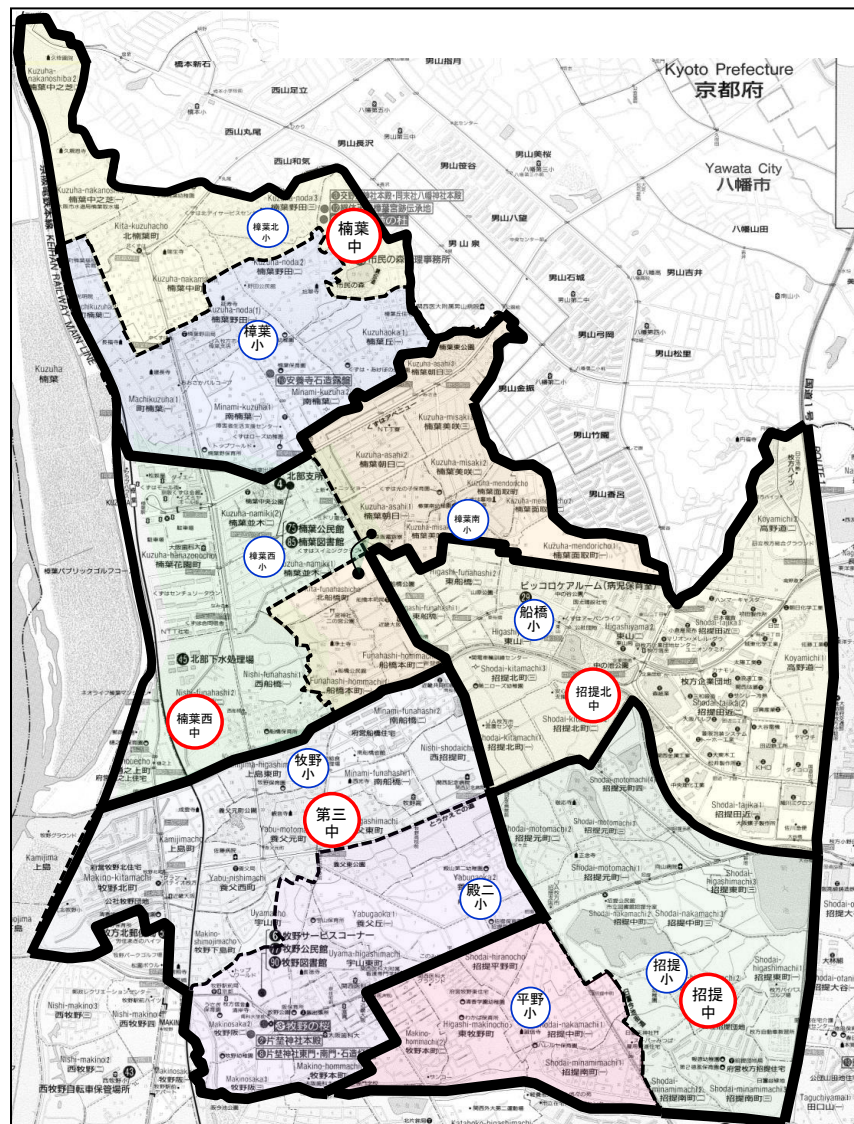
上記1の適正化方策案を図示したものです。
 ・ ○で囲んだ学校は学校統合の検討の対象とした学校を示します。また、□で囲んだ学校は適正規模の学校を示します。
 ・ 矢印は統合校をどちらの学校敷地に設置するかを示します。
 ・ 記号の網掛けは、適正化方策に選定した方策案を示します。



1の適正化方策案を図示したものです。

- ・ ○で囲んだ学校は学校統合の検討の対象とした学校を示します。また、□で囲んだ学校は適正規模の学校を示します。
- ・ 矢印は統合校をどちらの学校敷地に設置するかを示します。
- ・ 記号の網掛けは、適正化方策に選定した方策案を示します。

3. 小中学校位置図



各ブロック内の小学校・中学校の位置と校区を地図に表示するものです。

- ・ 太い実線は中学校区、点線は小学校区を示します。

4-1. 北部（1）樟葉北小学校 適正化方策案の検証評価

方策案	北部 A1 (樟葉小と統合)	
	ア (統合校：樟葉小)	イ (統合校：樟葉北小)
特に有効な点		
課題点など	<ul style="list-style-type: none"> 両校を統合した場合、児童数・学級数の将来推計において、平成40年度まで大規模校となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 両校を統合した場合、児童数・学級数の将来推計において、平成40年度まで大規模校となる。
	<ul style="list-style-type: none"> 保有教室が28教室しかなく、増築等が必要。 (学級数最大時は10教室程度、適正規模となる時期は4教室程度) 運動場面積が小学校設置基準を下回る状況となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 保有教室が25教室しかなく、増築等が必要。 (学級数最大時は13教室程度、適正規模となる時期は7教室程度) 学校敷地がやや不整形 樟葉小から分離開校しており、学校の沿革から課題がある。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> 樟葉北小学校の適正化方策案は樟葉小学校とのみであるが、統合においては常態的に（平成40年度まで）大規模校となることが予測されるため、今後の児童数・学級数の推移をみながら統合時期を見定める必要がある。 統合においては、両案とも教室数が不足するため増築が必要となるが、北部A1-イ案は学校の沿革など困難な課題があることなどから、課題が少ない北部A1-ア案が総合的に最善の方策であると考えます。なお、運動場面積についての課題は、統合の有無に関わらず別途解消を図る必要がある。 	

・各適正化方策案について、6ページの5.（1）に示す5つの視点での比較・評価における「特に有効な点」及び「問題点など」を示すとともに、総合評価をとりまとめたものです。

・太枠は、適正化方策に選定した方策案を示します。

参考（学級数・児童数の将来推計）

(現行推計)

区分		H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H35	H40	H45	H50	H55
樟葉北小	学級数 (CL) (2)	12	12	12	10	9	10	9	10	12	10	6	6
	児童数 (人) (6)	279	275	268	257	245	245	238	240	232	224	213	196
樟葉小	学級数 (CL) (3)	22	21	21	22	22	24	25	24	20	18	18	18
	児童数 (人) (13)	696	691	695	707	726	775	796	744	654	573	547	530

(統合後の推計)

区分		H27		H31	H32	H33	H35	H40	H45	H50	H55
統合校	学級数 (CL)	30 (3)		29	30	31	30	28	24	24	24
	児童数 (人)	975 (19)		971	1020	1034	984	886	797	760	726

各学校及び統合校の児童生徒数・学級数の将来推計を示すものです。

- ・網掛けは、小規模校又は大規模校に該当することを示します。
- ・H27の欄の()書きの数値は支援学級数及び支援学級の児童生徒数を示します。
- ・学級数及び児童生徒数は、平成33年度までは平成27年5月1日現在の幼児数・児童生徒数を基にした推計により、平成35年度以降は枚方市人口推計によるものです。

4-2. 北部(1) 樟葉北小学校(小中一貫校) 適正化方策案の検証評価

方策案	北部 A2 (樟葉北小と樟葉小を統合)
	樟葉北小と樟葉小を統合し、楠葉中敷地に楠葉中を含めた小中一貫校を設置する。
特に有効な点	・小中一貫校(施設一体型)設置のメリットがある。
課題点など	<ul style="list-style-type: none"> ・両校を統合した場合、児童数・学級数の将来推計において、平成40年度まで大規模校となる。 ・樟葉小の校舎は、国庫補助の採択を受けて平成32年度に長寿命化改修等を行う予定であり、平成42年度以前の樟葉小の廃止は国庫補助金適正化法に抵触する。 ・運動場面積が小・中学校設置基準面積を下回ることから、小中一貫校(施設一体型)を設置するためには学校敷地を拡張する必要があるが、学校の周囲は全て土地利用されており拡張は困難である。 ・樟葉小は明治6年創立であり、移転について地域の賛同を得ることには大きな課題がある。
総合評価	・小中一貫校設置のメリットがあるものの、統合小学校の児童・学級数を受け入れるだけの施設(校舎・運動場)が現在なく、周辺に拡張できる土地もないことから、小中一貫校の設置は困難であると考えます。

・各適正化方策案について、6ページの5.(1)に示す5つの視点での比較・評価における「特に有効な点」及び「課題点など」を示すとともに、総合評価をとりまとめたものです。

参考（学級数・児童数の将来推計）

（現行推計）

区分		H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H35	H40	H45	H50	H55
樟葉北小	学級数 (CL)	12 (2)	12	12	10	9	10	9	10	12	10	6	6
	児童数 (人)	279 (6)	275	268	257	245	245	238	240	232	224	213	196
樟葉小	学級数 (CL)	22 (3)	21	21	22	22	24	25	24	20	18	18	18
	児童数 (人)	696 (13)	691	695	707	726	775	796	744	654	573	547	530

（現行推計）

区分		H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H35	H40	H45	H50	H55
楠葉中	学級数 (CL)	16 (3)	16	15	14	14	13	13	15	14	12	12	12
	生徒数 (人)	565 (12)	563	526	516	492	464	459	509	485	424	388	376

（統合後の推計）

区分		H27			H31	H32	H33	H35	H40	H45	H50	H55
統合校 小学校	学級数 (CL)	30 (3)			29	30	31	30	28	24	24	24
	児童数 (人)	975 (19)			971	1020	1034	984	886	797	760	726

※樟葉北小児童数+樟葉小児童数

（統合後の推計）

区分		H27			H31	H32	H33	H35	H40	H45	H50	H55
統合校 中学校	学級数 (CL)	16 (3)			14	13	13	15	14	12	12	12
	生徒数 (人)	565 (12)			492	464	459	509	485	424	388	376

※楠葉中生徒数

各学校及び統合校の児童生徒数・学級数の将来推計を示すものです。

- ・網掛けは、小規模校又は大規模校に該当することを示します。
- ・H27の欄の（ ）書きの数値は支援学級数及び支援学級の児童生徒数を示します。
- ・学級数及び児童生徒数は、平成33年度までは平成27年5月1日現在の幼児数・児童生徒数を基にした推計により、平成35年度以降は枚方市人口推計によるものです。

4-3 北部 (2) 招提北中学校 適正化方策案の検証評価

方策案	北部 B (楠葉西中と統合)	北部 C (第三中と統合)	北部 D (招提中と統合)
	ア (統合校: 楠葉西中)	ア (統合校: 第三中)	ア (統合校: 招提中)
特に有効な点			・保有教室に余裕があり、増築等の必要性がない。
課題点など	<ul style="list-style-type: none"> ・保有教室が 28 教室しかなく、増築等が必要。(2 教室程度) ・最長通学距離が 3.7km となる地区がある。通学路の一部区間でバス通学の検討ができる。 ・交通量の多い府道を横断して通学しなければならない。 ・校区が東西方向 3.2km と広大である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保有教室が 23 教室しかなく、増築等が必要。(9 教室程度) ・最長通学距離が 3.1km となる地区がある。 ・船橋川及び交通量の多い府道を横断して通学しなければならない。 ・校区が東西方向 3.9km と広大である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最長通学距離が 3.1km となる地区がある。 ・船橋川を横断して通学しなければならない。 ・校区が南北方向 2.9km と広大である。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・各方策案とも通学距離が長いという課題があるが、保有教室数の点において課題がない北部D-ア案が有効であると考えます。 ・招提北中学校は現時点で小規模校であるが、平成 30 年度以降平成 45 年度まで適正規模になると予測されるため、今後の生徒数・学級数の推移を見定めながら、統合時期を判断することが適切である。 		

・各適正化方策案について、6 ページの 5. (1) に示す 5 つの視点での比較・評価における「特に有効な点」及び「課題点など」を示すとともに、総合評価をとりまとめたものです。

・太枠は、適正化方策に選定した方策案を示します。

参考（学級数・生徒数の将来推計）

（現行推計）

区分		H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H35	H40	H45	H50	H55
招提北中	学級数 (CL)	7 (2)	7	8	9	9	9	9	9	9	9	6	6
	生徒数 (人)	244 (6)	258	309	313	324	297	313	323	295	255	236	236
招提中	学級数 (CL)	11 (2)	12	11	11	11	12	12	12	12	9	9	9
	生徒数 (人)	381 (9)	413	393	408	390	426	424	448	396	357	339	334

（統合後の推計）

区分		H27		H31	H32	H33	H35	H40	H45	H50	H55
統合校	学級数 (CL)	18 (2)		19	20	21	21	18	18	15	15
	生徒数 (人)	625 (15)		714	723	737	771	691	612	575	570

各学校及び統合校の児童生徒数・学級数の将来推計を示すものです。

- ・網掛けは、小規模校又は大規模校に該当することを示します。
- ・H27の欄の（ ）書きの数値は支援学級数及び支援学級の児童生徒数を示します。
- ・学級数及び児童生徒数は、平成33年度までは平成27年5月1日現在の幼児数・児童生徒数を基にした推計により、平成35年度以降は枚方市人口推計によるものです。

【中部ブロック】

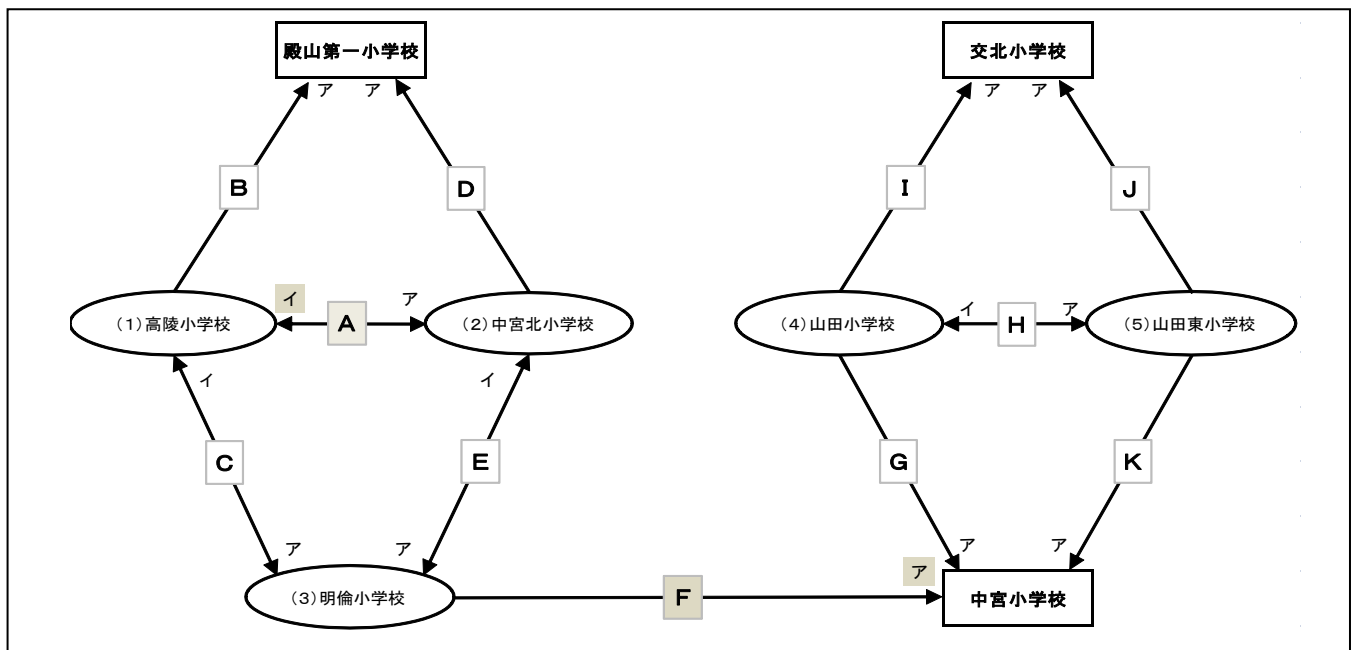
1. 適正化方策案

学校統合の 検討の対象校	方策 区分	方策案	備考
(1) 高陵小学校	A	中宮北小学校と統合する。	
	ア	中宮北小学校敷地に統合校を設置する。	
	イ	高陵小学校敷地に統合校を設置する。	
	B	殿山第一小学校と統合する。	
	ア	殿山第一小学校敷地に統合校を設置する。	
	イ	(高陵小学校敷地に統合校を設置する。)	* 検討除外
	C	明倫小学校と統合する。	
	ア	明倫小学校敷地に統合校を設置する。	
	イ	高陵小学校敷地に統合校を設置する。	
(2) 中宮北小学校	A	高陵小学校と統合する。	
	ア	中宮北小学校敷地に統合校を設置する。	
	イ	高陵小学校敷地に統合校を設置する。	
	D	殿山第一小学校と統合する。	
	ア	殿山第一小学校敷地に統合校を設置する。	
	イ	(中宮北小学校敷地に統合校を設置する。)	* 検討除外
	E	明倫小学校と統合する。	
	ア	明倫小学校敷地に統合校を設置する。	
	イ	中宮北小学校敷地に統合校を設置する。	
(3) 明倫小学校	C	高陵小学校と統合する。	
	ア	明倫小学校敷地に統合校を設置する。	
	イ	高陵小学校敷地に統合校を設置する。	
	E	中宮北小学校と統合する。	
	ア	明倫小学校敷地に統合校を設置する。	
	イ	中宮北小学校敷地に統合校を設置する。	
	F	中宮小学校と統合する。	
	ア	中宮小学校敷地に統合校を設置する。	
	イ	(明倫小学校敷地に統合校を設置する。)	* 検討除外
(4) 山田小学校	G	中宮小学校と統合する。	
	ア	中宮小学校敷地に統合校を設置する。	
	イ	(山田小学校敷地に統合校を設置する。)	* 検討除外
	H	山田東小学校と統合する。	
	ア	山田東小学校敷地に統合校を設置する。	
	イ	山田小学校敷地に統合校を設置する。	
	I	交北小学校と統合する。	
	ア	交北小学校敷地に統合校を設置する。	
	イ	(山田小学校敷地に統合校を設置する。)	* 検討除外
(5) 山田東小学校	H	山田小学校と統合する。	
	ア	山田東小学校敷地に統合校を設置する。	
	イ	山田小学校敷地に統合校を設置する。	
	J	交北小学校と統合する。	
	ア	交北小学校敷地に統合校を設置する。	
	イ	(山田東小学校敷地に統合校を設置する。)	* 検討除外
	K	中宮小学校と統合する。	
	ア	中宮小学校敷地に統合校を設置する。	
	イ	(山田東小学校敷地に統合校を設置する。)	* 検討除外

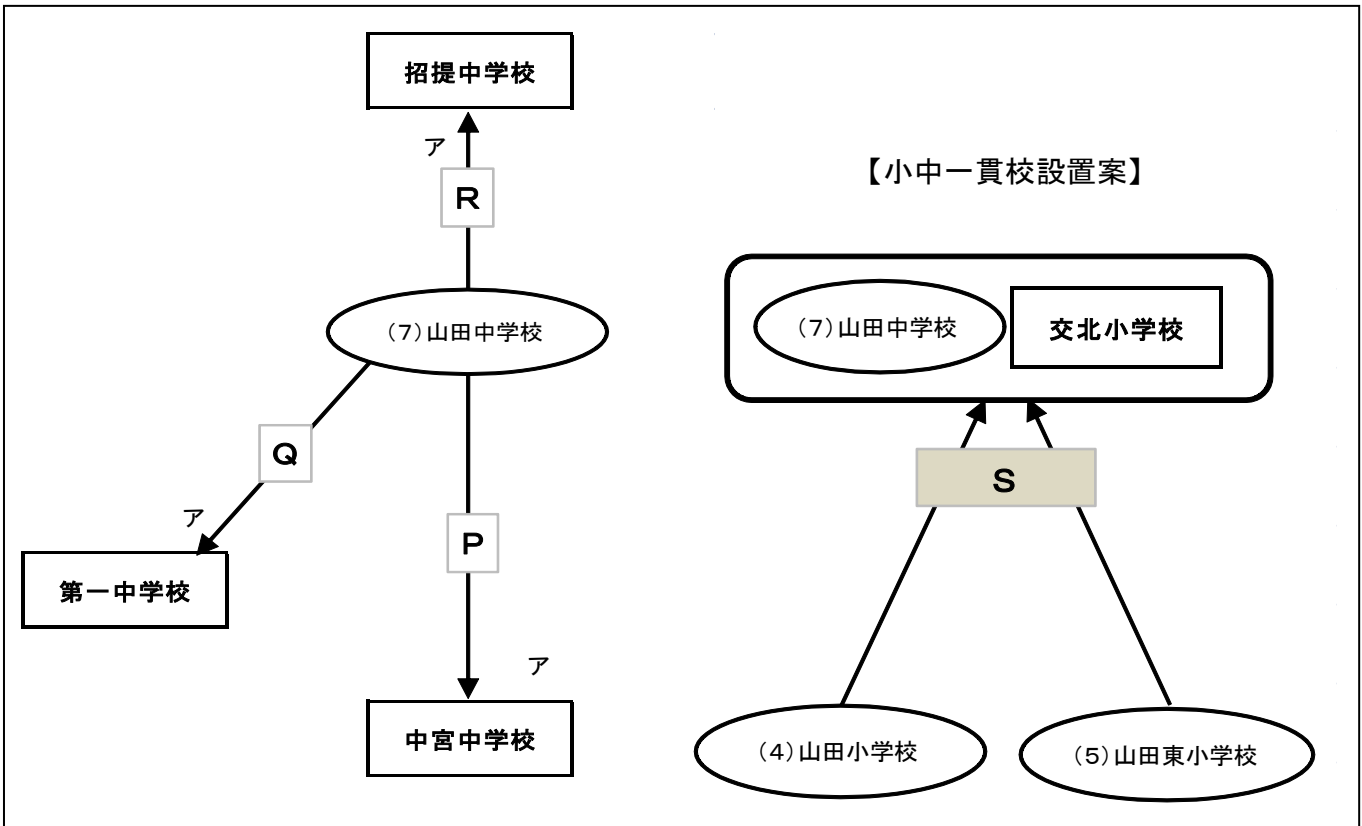
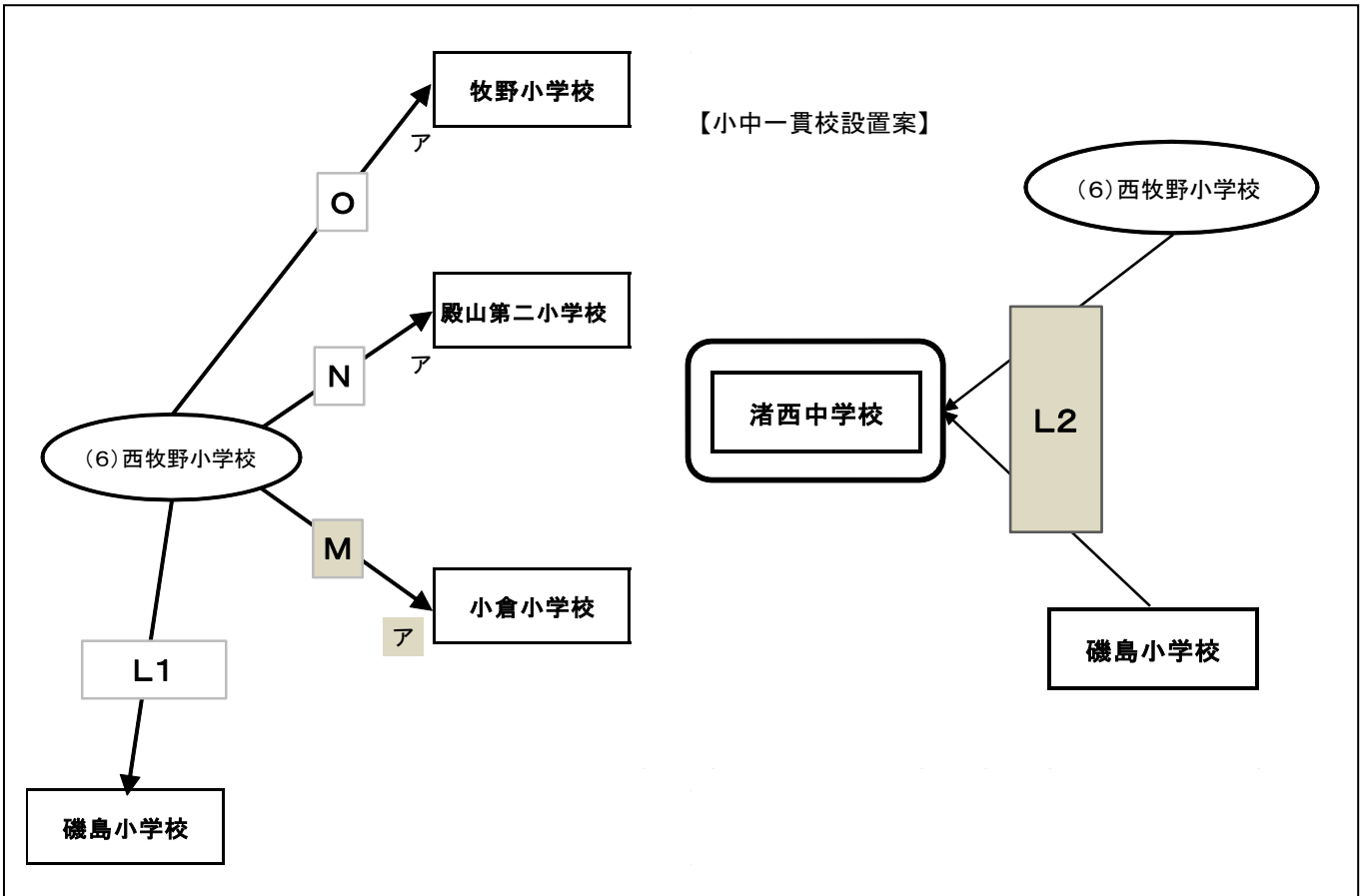
学校統合の検討の対象校	方策区分	方策案	備考
(6) 西牧野小学校	L	磯島小学校と統合する。	
	1	磯島小学校敷地に統合校を設置する。	
	2	渚西中学校敷地に渚西中学校を含めた小中一貫校を設置する。	
	M	小倉小学校と統合する。	
	ア	小倉小学校敷地に統合校を設置する。	
	イ	(西牧野小学校敷地に統合校を設置する。)	* 検討除外
	N	殿山第二小学校と統合する。	
	ア	殿山第二小学校敷地に統合校を設置する。	
	イ	(西牧野小学校敷地に統合校を設置する。)	* 検討除外
	O	牧野小学校と統合する。	
ア	牧野小学校敷地に統合校を設置する。		
イ	(西牧野小学校敷地に統合校を設置する。)	* 検討除外	
(7) 山田中学校	P	中宮中学校と統合する。	
	ア	中宮中学校敷地に統合校を設置する。	
	イ	(山田中学校敷地に統合校を設置する。)	* 検討除外
	Q	第一中学校と統合する。	
	ア	第一中学校敷地に統合校を設置する。	
	イ	(山田中学校敷地に統合校を設置する。)	* 検討除外
	R	招提中学校と統合する。	
ア	招提中学校敷地に統合校を設置する。		
イ	(山田中学校敷地に統合校を設置する。)	* 検討除外	
(4) 山田小 (5) 山田東小 (7) 山田中	S (I・J)	交北小学校と統合し、交北小学校・山田中学校敷地に山田中学校を含めた小中一貫校を設置する。	

学校統合の検討対象とした学校に隣接する学校を、統合の相手校として設定した方策案を示すものです。
 ・方策案毎に区分し、統合校をどちらの学校敷地に設置するかを、アまたはイで分類しています。
 ・統合の相手校が適正規模の学校である場合には、検討の対象の学校に統合校を設置する方策案は検討除外としています。
 ・網掛けは、適正化方策に選定した方策案を示します。

2. 適正化方策案解説図

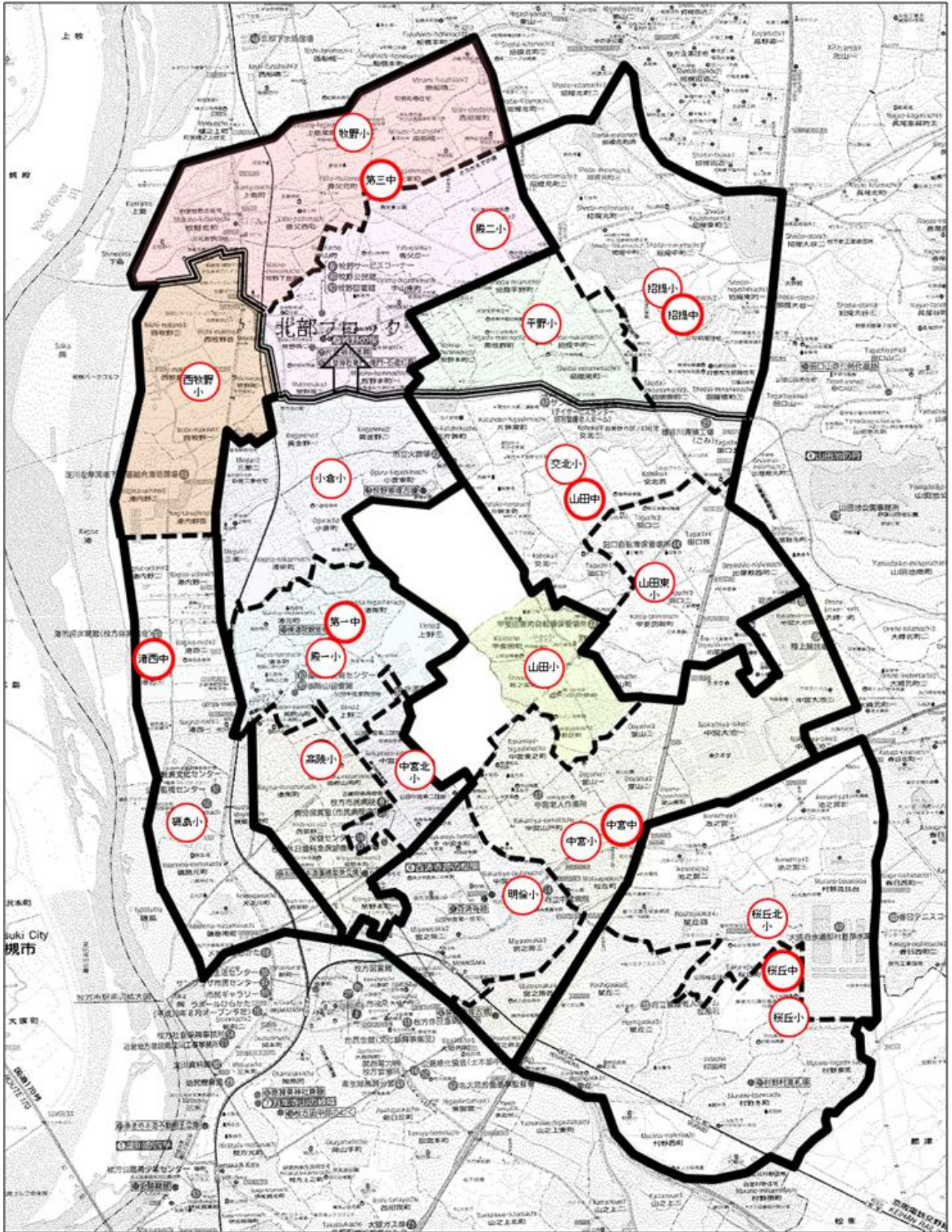


- で囲んだ学校は学校統合の検討の対象とした学校を示します。また、□で囲んだ学校は適正規模の学校を示します。
- 矢印は統合校をどちらの学校敷地に設置するかを示します。
- 記号の網掛けは、適正化方策に選定した方策案を示します。



- ・ ○で囲んだ学校は学校統合の検討の対象とした学校を示します。また、□で囲んだ学校は適正規模の学校を示します。
- ・ 矢印は統合校をどちらの学校敷地に設置するかを示します。
- ・ 記号の網掛けは、適正化方策に選定した方策案を示します。

3. 小中学校位置図



各ブロック内の小学校・中学校の位置と校区を地図に表示するものです。
 ・太い実線は中学校区、点線は小学校区を示します。

4-1. 中部（1）高陵小学校 適正化方策案の検証評価

方策案	中部 A (中宮北小と統合)		中部 B (殿山第一小と統合)	中部 C (明倫小と統合)	
	ア(統合校:中宮北小)	イ(統合校:高陵小)	ア(統合校:殿山第一小)	ア(統合校:明倫小)	イ(統合校:高陵小)
特に有効な点		<ul style="list-style-type: none"> 校区のほぼ中央に位置する。 保有教室に余裕があり増築の必要がない。 	<ul style="list-style-type: none"> 第一中が隣接しており、小中一貫教育の対応が行いやすい。 		<ul style="list-style-type: none"> 保有教室に余裕があり増築の必要がない。
課題点など	<ul style="list-style-type: none"> 保有教室が19教室しかなく、増築等が必要。(5教室程度) 高陵小は明倫小から分離開校しており、学校の沿革から課題がある。 		<ul style="list-style-type: none"> 保有教室が25教室しかなく、増築等が必要。(3教室程度) 学校敷地が他の学校に比べて狭い。(約2/3程度) 最長通学距離が約2.0kmとなる地区がある。 多くの地区で他の小学校(中宮北小・明倫小)の方が近く、一部の地区は中宮北小校区を通過して通学しなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> 保有教室が13教室しかなく、増築等が必要。(9教室程度) 多くの地区で中宮北小の方が近く、中宮北小校区を通過して通学しなければならない。 多くの児童が交通量の多い道路(杉田口禁野線)を横断して通学しなければならない。 中学校通学区域の変更が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 最長通学距離が約2.0kmとなる地区がある。 多くの地区で他の小学校(中宮北小・中宮小)の方が近く、中宮北小校区を通過して通学しなければならない。 多くの児童が交通量の多い道路(杉田口禁野線)を横断して通学しなければならない。 中学校通学区域の変更が必要である。 高陵小は明倫小から分離開校しており、学校の沿革から課題がある。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> 中部C案は、中学校区を越えた統合案であるため、新たな一小一中の課題が生じることや、通学路が他の小学校区にかかること、交通量の多い道路を横断する必要があることなど、多くの課題がある。 中部B案は、通学距離や他の小学校の方が近い地区が多いなどの課題がある。 中部A-イ案は、大きな課題がなく、学校の位置や保有教室数の点からも評価できることから、総合的に最善の方策であると考えられる。 				

・各適正化方策案について、6ページの5.(1)に示す5つの視点での比較・評価における「特に有効な点」及び「問題点など」を示すとともに、総合評価をとりまとめたものです。

・太枠は、適正化方策に選定した方策案を示します。

参考（学級数・児童数の将来推計）

（現行推計）

区分		H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H35	H40	H45	H50	H55
高陵小	学級数 (CL)	6 (2)	6	6	6	6	6	7	6	6	6	6	6
	児童数 (人)	148 (10)	150	149	158	161	169	180	145	126	105	77	60
中宮北小	学級数 (CL)	11 (3)	11	10	10	11	12	11	8	6	6	6	6
	児童数 (人)	263 (12)	260	256	267	266	285	273	248	185	174	174	173

（統合後の推計）

区分		H27		H31	H32	H33	H35	H40	H45	H50	H55
統合校	学級数 (CL)	13 (5)		15	15	16	14	12	12	12	10
	児童数 (人)	411 (22)		427	454	453	393	311	279	251	233

各学校及び統合校の児童生徒数・学級数の将来推計を示すものです。

- ・網掛けは、小規模校又は大規模校に該当することを示します。
- ・H27の欄の（ ）書きの数値は支援学級数及び支援学級の児童生徒数を示します。
- ・学級数及び児童生徒数は、平成33年度までは平成27年5月1日現在の幼児数・児童生徒数を基にした推計により、平成35年度以降は枚方市人口推計によるものです。

4-2. 中部（2）中宮北小学校 適正化方策案の検証評価

方策案	中部 A (高陵小と統合)		中部 D (殿山第一小と統合)	中部 E (明倫小と統合)	
	ア(統合校:中宮北小)	イ(統合校:高陵小)	ア(統合校:殿山第一小)	ア(統合校:明倫小)	ア(統合校:中宮北小)
特に有効な点		<ul style="list-style-type: none"> ・校区のほぼ中央に位置する。 ・保有教室に余裕があり増築の必要がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第一中が隣接していることから、小中一貫教育の対応が行いやすい。 		
課題点など	<ul style="list-style-type: none"> ・保有教室が19教室しかなく、増築等が必要。(5教室程度) ・高陵小は明倫小から分離開校しており、学校の沿革から課題がある。 		<ul style="list-style-type: none"> ・一時的(H35年度)に大規模校(26c1)となる時期がある。 ・保有教室が25教室しかなく、増築等が必要。(9教室程度) ・児童数最大時の運動場面積が、小学校設置基準を下回る。 ・学校敷地が他の学校に比べて狭い。(約2/3程度) ・多くの地区で高陵小の方が近い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保有教室が13教室しかなく増築等が必要(14教室程度)であるが、敷地的に増築は難しく、現校舎は比較的新しいため改築も難しい。 ・一部の地区で高陵小の方が近い。 ・多くの児童が交通量の多い道路(杉田口禁野線)を横断して通学しなければならない。 ・中学校通学区域の変更が必要である。 ・中宮北小は明倫小から分離開校しており、学校の沿革から課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保有教室が19教室しかなく、増築等が必要。(8教室程度) ・一部の地区は高陵小校区を通過して通学しなければならない。 ・多くの児童が交通量の多い道路(杉田口禁野線)を横断して通学しなければならない。 ・中学校通学区域の変更が必要である。 ・中宮北小は明倫小から分離開校しており、学校の沿革から課題がある。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・中部E案は、中学校区を越えた統合案であるため新たな一小一中の課題が生じることや、教室の増築が必要であること、交通量の多い道路を横断する必要があることなど、多くの課題がある。 ・中部D案は、他の小学校の方が近い地区が多いことや学校敷地が狭隘なこと、教室の増築が必要であることなどの課題がある。 ・中部A-イ案は、大きな課題がなく、学校の位置や保有教室数の点からも評価できることから、総合的に最善の方策であると考えます。 				

・各適正化方策案について、6ページの5.(1)に示す5つの視点での比較・評価における「特に有効な点」及び「問題点など」を示すとともに、総合評価をとりまとめたものです。

・太枠は、適正化方策に選定した方策案を示します。

参考（学級数・児童数の将来推計）

（現行推計）

区分		H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H35	H40	H45	H50	H55
高陵小	学級数 (CL)	6 (2)	6	6	6	6	6	7	6	6	6	6	6
	児童数 (人)	148 (10)	150	149	158	161	169	180	145	126	105	77	60
中宮北小	学級数 (CL)	11 (3)	11	10	10	11	12	11	8	6	6	6	6
	児童数 (人)	263 (12)	260	256	267	266	285	273	248	185	174	174	173

（統合後の推計）

区分		H27		H31	H32	H33	H35	H40	H45	H50	H55
統合校	学級数 (CL)	13 (5)		15	15	16	14	12	12	12	10
	児童数 (人)	411 (22)		427	454	453	393	311	279	251	233

各学校及び統合校の児童生徒数・学級数の将来推計を示すものです。

- ・網掛けは、小規模校又は大規模校に該当することを示します。
- ・H27の欄の（ ）書きの数値は支援学級数及び支援学級の児童生徒数を示します。
- ・学級数及び児童生徒数は、平成33年度までは平成27年5月1日現在の幼児数・児童生徒数を基にした推計により、平成35年度以降は枚方市人口推計によるものです。

4-3. 中部（3）明倫小学校 適正化方策案の検証評価

方策案	中部 C (高陵小と統合)		中部 E (中宮北小と統合)		中部 F (中宮小と統合)
	ア (統合校：明倫小)	イ (統合校：高陵小)	ア (統合校：明倫小)	イ (統合校：中宮北小)	ア (統合校：中宮小)
特に有効な点		<ul style="list-style-type: none"> 保有教室に余裕があり増築の必要がない。 			<ul style="list-style-type: none"> 保有教室に余裕があり、増築の必要がない。 中宮中が近隣にあり、小中一貫教育の対応が行いやすい。
課題点など	<ul style="list-style-type: none"> 保有教室が13教室しかなく、増築等が必要。(9教室程度) 多くの地区で中宮北小の方が近く、中宮北小校区を通過して通学しなければならない。 多くの児童が交通量の多い道路(杉田口禁野線)を横断して通学しなければならない。 中学校通学区域の変更が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 最長通学距離が約2.0kmとなる地区がある。 多くの地区で中宮北小や中宮小の方が近く、中宮北小校区を通過して通学しなければならない。 多くの児童が交通量の多い道路(杉田口禁野線)を横断して通学しなければならない。 中学校通学区域の変更が必要である。 高陵小は明倫小から分離開校しており、学校の沿革から課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 保有教室が13教室しかなく、増築等が必要(14教室程度)であるが、敷地的に増築は難しく、現校舎は比較的新しいため改築も難しい。 一部の地区で高陵小の方が近い。 多くの児童が交通量の多い道路(杉田口禁野線)を横断して通学しなければならない。 中学校通学区域の変更が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 保有教室が19教室しかなく、増築等が必要(8教室程度)。 一部の地区は高陵小校区を通過して通学しなければならない。 多くの児童が交通量の多い道路(杉田口禁野線)を横断して通学しなければならない。 中学校通学区域の変更が必要である。 中宮北小は明倫小から分離開校しており、学校の沿革から課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 中宮小は明倫小から分離開校しており、学校の沿革から課題がある。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> 中部C案・E案は、中学校区を越えた統合案であるため新たな一小一中の課題が生じることや、通学路が他の小学校区にかかること、交通量の多い道路を横断する必要があることなど、多くの課題がある。また、C-イ案を除き、教室が不足することから増築等が必要となる。 中部F-ア案は、中宮小学校が一部明倫小学校から分離開校したという学校の沿革に課題はあるものの、増築の必要がないことや中宮中学校との小中一貫教育の対応が行いやすいことなどから、総合的に最善の方策であると考えられる。 明倫小学校は現時点で小規模校であるが、平成40年度に一旦適正規模になると予測されるため、今後の児童数・学級数の推移を見定めながら、統合時期を判断することが適切である。 				

・各適正化方策案について、6ページの5.(1)に示す5つの視点での比較・評価における「特に有効な点」及び「問題点など」を示すとともに、総合評価をとりまとめたものです。

・太枠は、適正化方策に選定した方策案を示します。

参考（学級数・児童数の将来推計）

（現行推計）

区分		H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H35	H40	H45	H50	H55
明倫小	学級数 (CL)	9 (3)	10	10	11	11	10	10	10	12	6	6	6
	児童数 (人)	241 (13)	239	234	241	255	247	255	243	235	204	166	143
中宮小	学級数 (CL)	15 (4)	15	15	14	15	16	15	16	12	12	12	12
	児童数 (人)	439 (25)	437	449	449	456	451	432	446	400	345	298	266

（統合後の推計）

区分		H27		H31	H32	H33	H35	H40	H45	H50	H55
統合校	学級数 (CL)	21 (5)		21	22	21	22	19	18	18	12
	児童数 (人)	680 (38)		711	698	687	689	635	549	464	409

各学校及び統合校の児童生徒数・学級数の将来推計を示すものです。

- ・網掛けは、小規模校又は大規模校に該当することを示します。
- ・H27の欄の（ ）書きの数値は支援学級数及び支援学級の児童生徒数を示します。
- ・学級数及び児童生徒数は、平成33年度までは平成27年5月1日現在の幼児数・児童生徒数を基にした推計により、平成35年度以降は枚方市人口推計によるものです。

4-4. 中部（4）山田小学校 適正化方策案の検証評価

方策案	中部 G (中宮小と統合)	中部 H (山田東小と統合)		中部 I (交北小と統合)
	ア (統合校: 中宮小)	ア (統合校: 山田東小)	イ (統合校: 山田小)	ア (統合校: 交北小)
特に有効な点	<ul style="list-style-type: none"> ・保有教室に余裕があり増築の必要がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保有教室に余裕があり増築の必要がない。 		<ul style="list-style-type: none"> ・保有教室に余裕があり増築の必要がない。
課題点など	<ul style="list-style-type: none"> ・最長通学距離が約1.7kmとなる地区がある。 ・中宮小は山田小から分離開校しており、学校の沿革から課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一部の地区は交北小校区を通過して通学しなければならない。 ・現状も同様であるが、多くの児童が交通量の多い道路(杉田口禁野線)を横断して通学しなければならない。 ・中学校通学区域の変更が必要である。 ・山田東小は山田小から分離開校しており、学校の沿革から課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保有教室が19教室しかなく、増築等が必要。(5教室程度) ・一部の地区は交北小の方が近く、交北小校区を通過して通学しなければならない。 ・現状も同様であるが、多くの児童が交通量の多い道路(杉田口禁野線)を横断して通学しなければならない。 ・中学校通学区域の変更が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最長通学距離が2.2kmとなる地区がある。 ・殆どの地区で、山田東小の方が近く(一部の地区では中宮小の方が近い)、一部の地区は山田東小校区を通過して通学しなければならない。 ・現状も同様であるが、一部の児童が交通量の多い道路(杉田口禁野線)を横断して通学しなければならない。 ・中学校通学区域の変更が必要である。 ・交北小は山田小から分離開校しており、学校の沿革から課題がある。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・中部H案・I案は、中学校区を越えた統合案であるため新たな一小一中の課題が生じることや、通学路が他の校区にかかること、現状も同様であるが交通量の多い道路を横断する必要があることなど、多くの課題がある。 ・中部G-ア案は、学校の沿革や通学距離がやや長くなる課題があるが、他に大きな課題はないことから、総合的に最善の方策であると考えます。 			

・各適正化方策案について、6ページの5.(1)に示す5つの視点での比較・評価における「特に有効な点」及び「問題点など」を示すとともに、総合評価をとりまとめたものです。

・太枠は、適正化方策に選定した方策案を示します。

参考（学級数・児童数の将来推計）

（現行推計）

区分		H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H35	H40	H45	H50	H55
山田小	学級数 (CL)	9 (3)	7	7	7	7	7	7	10	12	10	6	6
	児童数 (人)	230 (12)	209	203	203	200	194	183	243	245	222	187	160
中宮小	学級数 (CL)	15 (4)	15	15	14	15	16	15	16	12	12	12	12
	児童数 (人)	439 (25)	437	449	449	456	451	432	446	400	345	298	266

（統合後の推計）

区分		H27		H31	H32	H33	H35	H40	H45	H50	H55
統合校	学級数 (CL)	20 (6)		20	21	20	22	19	18	18	13
	児童数 (人)	669 (37)		656	645	615	689	645	567	485	426

各学校及び統合校の児童生徒数・学級数の将来推計を示すものです。

- ・網掛けは、小規模校又は大規模校に該当することを示します。
- ・H27の欄の（ ）書きの数値は支援学級数及び支援学級の児童生徒数を示します。
- ・学級数及び児童生徒数は、平成33年度までは平成27年5月1日現在の幼児数・児童生徒数を基にした推計により、平成35年度以降は枚方市人口推計によるものです。

4-5. 中部 (5) 山田東小学校 適正化方策案の検証評価

方策案	中部 H (山田小と統合)		中部 J (交北小学校と統合)	中部 K (中宮小と統合)
	ア (統合校: 山田東小)	イ (統合校: 山田小)	ア (統合校: 交北小)	ア (統合校: 中宮小)
特に有効な点	<ul style="list-style-type: none"> ・保有教室に余裕があり増築の必要がない。 		<ul style="list-style-type: none"> ・保有教室に余裕があり増築の必要がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保有教室に余裕があり増築の必要がない。
課題点など	<ul style="list-style-type: none"> ・一部の地区は交北小校区を通過して通学しなければならない。 ・現状も同様であるが多くの児童が交通量の多い道路 (杉田口禁野線) を横断して通学しなければならない。 ・中学校通学区域の変更が必要である。 ・山田東小は山田小から分離開校しており、学校の沿革から課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保有教室が 19 教室しかなく、増築等が必要。(5 教室程度) ・一部の地区は交北小の方が近く、交北小校区を通過して通学しなければならない。 ・現状も同様であるが、多くの児童が交通量の多い道路 (杉田口禁野線) を横断して通学しなければならない。 ・中学校通学区域の変更が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最長通学距離が約 1.8km となる地区がある。 ・現状も同様であるが、多くの児童が交通量の多い道路 (杉田口禁野線) を横断して通学しなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最長通学距離が 2.5km となる地区がある。通学路の一部区間でバス通学の検討ができるが、低学年児童の適用には課題がある。 ・多くの地区で山田小校区を通過して通学しなければならない。 ・統合校の校区は歪で、現状も同様であるが、一部の地区で交通量の多い道路 (杉田口禁野線) を横断して通学しなければならない。 ・中学校通学区域の変更が必要である。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・中部H案・K案は、中学校区を越えた統合案であるため新たな一小一中の課題が生じることや、通学路が他の校区にかかること、現状も同様であるが交通量の多い道路を横断する必要があることなど、多くの課題がある。 ・中部J-ア案は、通学距離がやや長い地区がある課題はあるが、保有教室数や学校の沿革の点からも評価できることから、総合的に最善の方策であると考えます。 			

・各適正化方策案について、6ページの5.(1)に示す5つの視点での比較・評価における「特に有効な点」及び「問題点など」を示すとともに、総合評価をとりまとめたものです。
 ・太枠は、適正化方策に選定した方策案を示します。

参考（学級数・児童数の将来推計）

（現行推計）

区分		H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H35	H40	H45	H50	H55
山田東小	学級数 (CL)	12 (2)	11	10	10	8	7	8	10	7	6	6	6
	児童数 (人)	274 (6)	264	241	234	226	208	209	230	216	202	181	159
交北小	学級数 (CL)	15 (4)	15	15	15	14	13	13	12	6	6	6	6
	児童数 (人)	446 (15)	448	449	456	451	424	396	288	208	184	159	133

（統合後の推計）

区分		H27		H31	H32	H33	H35	H40	H45	H50	H55
統合校	学級数 (CL)	22 (4)		21	19	19	18	12	12	12	12
	児童数 (人)	720 (21)		677	632	605	518	424	386	340	292

各学校及び統合校の児童生徒数・学級数の将来推計を示すものです。

- ・網掛けは、小規模校又は大規模校に該当することを示します。
- ・H27の欄の（ ）書きの数値は支援学級数及び支援学級の児童生徒数を示します。
- ・学級数及び児童生徒数は、平成33年度までは平成27年5月1日現在の幼児数・児童生徒数を基にした推計により、平成35年度以降は枚方市人口推計によるものです。

4-6. 中部（6）西牧野小学校 適正化方策案の検証評価

方策案	中部 L (磯島小と統合)		中部 M (小倉小と統合)	中部 N (殿山第二小と統合)	中部 O (牧野小と統合)
	1 (統合校：磯島小)	2 (統合校：渚西中に小中一貫校を設置)	ア (統合校：小倉小)	ア (統合校：殿山第二小)	1 (統合校：磯島小)
特に有効な点		<ul style="list-style-type: none"> 小中一貫校（施設一体型）設置のメリットがある。 			
課題点など	<ul style="list-style-type: none"> 平成 33 年度まで大規模校となる。 保有教室が 28 教室しかなく、増築等が必要。(7 教室程度) 最長通学距離が 3.5km となる地区がある。通学路の一部区間でバス通学の検討ができるが、低学年児童への適用には課題がある。 校区が南北方向に 3.6km と広大である。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成 33 年度まで大規模校となる。 小中一貫校に対応するため、増築・拡張が必要となるが、周辺は農地のため、拡張できる可能性がある。 最長通学距離が 2.5km となる地区がある。通学路の一部区間でバス通学の検討ができるが、低学年児童の適用には課題がある。 校区が南北方向に 3.6km と広大である。 	<ul style="list-style-type: none"> 保有教室が 25 教室しかなく、増築等が必要。(9 教室程度) ほぼ全ての児童が京阪電鉄本線を横断して通学しなければならない。 中学校通学区域の変更が必要である。その場合、渚西中が小規模校となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 保有教室が 25 教室しかなく、増築等が必要。(5 教室程度) 最長通学距離が 2.2km となる地区がある。通学路の一部区間でバス通学の検討ができるが、低学年児童の適用には課題がある。 一部の地区は小倉小学校区を通過して通学しなければならない。 ほぼ全ての児童が京阪電鉄本線を横断して通学しなければならない。 西牧野小校区からは最も遠い位置にある。 中学校通学区域の変更が必要である。その場合、渚西中が小規模校となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成 33 年度まで大規模校となる。 一部住宅開発が見込まれ、児童数の増加が懸念される。(大規模校が平成 40 年度まで続く可能性あり。) 保有教室が 28 教室しかなく、増築等が必要。(11 教室程度) 最長通学距離が 2.0km となる地区がある。通学路の一部区間でバス通学の検討ができるが、低学年児童の適用には課題がある。 一部の地区は殿二小校区を通過して通学することになる可能性がある。 ほぼ全ての児童が京阪電鉄本線を横断して通学しなければならない。 校区が東西方向に 3.2km と広大である。 中学校通学区域の変更が必要である。その場合、渚西中が小規模校となる。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> 学校統合のみの方策としては、中部M-ア案の小倉小学校との統合が、保有教室の不足や一小一中の接続関係が確保できないなどの課題はあるものの、通学距離の点では有効であり、最も課題が少ない。 磯島小学校と統合し、渚西中学校との小中一貫校（施設一体型）設置のメリットがある中部L 2案は、通学距離の課題や一時的に大規模校となる課題は残るものの、施設規模の課題は周辺が農地であり敷地を拡張できる可能性があることから、解消を見込むことができる。 西牧野小学校は現時点で小規模校であるが、将来、一旦適正規模になる予測があることや、小規模ながら住宅開発の余地も残っていることから、しばらくの間、児童数・学級数の推移を見定めながら、改めて判断することが適切である。 				

・各適正化方策案について、6 ページの 5. (1) に示す 5 つの視点での比較・評価における「特に有効な点」及び「問題点など」を示すとともに、総合評価をとりまとめたものです。

・太枠は、適正化方策に選定した方策案を示します。

参考（学級数・児童数の将来推計）

・中部M-ア

（現行推計）

区分		H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H35	H40	H45	H50	H55
西牧野小	学級数 (CL)	9 (3)	9	10	10	11	12	11	12	6	6	6	6
	児童数 (人)	205 (10)	217	235	245	256	273	261	244	197	174	162	157
小倉小	学級数 (CL)	16 (3)	16	17	16	15	14	13	16	13	12	12	12
	児童数 (人)	510 (20)	500	498	462	452	422	402	441	425	400	374	339

（統合後の推計）

区分		H27			H31	H32	H33	H35	H40	H45	H50	H55
統合校	学級数 (CL)	22 (6)			21	21	21	24	18	18	18	18
	児童数 (人)	715 (30)			708	695	663	685	622	574	536	496

・中部L 2

（現行推計）

区分		H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H35	H40	H45	H50	H55
西牧野小	学級数 (CL)	9 (3)	9	10	10	11	12	11	12	6	6	6	6
	児童数 (人)	205 (10)	217	235	245	256	273	261	244	197	174	162	157
磯島小	学級数 (CL)	13 (3)	14	15	16	18	19	19	17	12	12	16	16
	児童数 (人)	403 (13)	447	470	490	536	547	536	487	407	399	437	503

区分		H27			H31	H32	H33	H35	H40	H45	H50	H55
渚西中	学級数 (CL)	7 (2)			9	9	10	12	9	9	9	9
	生徒数 (人)	229 (7)			295	295	324	441	329	293	287	305

（統合後の推計）

区分		H27			H31	H32	H33	H35	H40	H45	H50	H55
統合校 小学校	学級数 (CL)	18 (5)			25	26	25	24	18	18	18	22
	児童数 (人)	608 (23)			792	820	797	731	604	573	599	660

※西牧野小児童+磯島小児童数

（統合後の推計）

区分		H27			H31	H32	H33	H35	H40	H45	H50	H55
統合校 中学校	学級数 (CL)	7 (2)			9	9	10	12	9	9	9	9
	生徒数 (人)	229 (7)			295	295	324	441	329	293	287	305

※渚西中生徒数

各学校及び統合校の児童生徒数・学級数の将来推計を示すものです。

- ・網掛けは、小規模校又は大規模校に該当することを示します。
- ・H27の欄の（ ）書きの数値は支援学級数及び支援学級の児童生徒数を示します。
- ・学級数及び児童生徒数は、平成33年度までは平成27年5月1日現在の幼児数・児童生徒数を基にした推計により、平成35年度以降は枚方市人口推計によるものです。

4-7. 中部 (7) 山田中学校 適正化方策案の検証評価

方策案	中部 P (中宮中と統合)	中部 Q (第一中と統合)	中部 R (招提中と統合)
	ア (統合校: 中宮中)	ア (統合校: 第一中)	ア (統合校: 招提中)
特に有効な点		<ul style="list-style-type: none"> ・保有教室に余裕があり増築の必要がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保有教室に余裕があり増築の必要がない。
課題点など	<ul style="list-style-type: none"> ・保有教室が 26 教室しかなく、増築等が必要。(3 教室程度) ・最長通学距離が 2.8km となる地区がある。 ・現状も同様であるが、多くの生徒が交通量の多い道路(杉田口禁野線)を横断して通学しなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・統合中学校の生徒数・学級数の将来推計において、平成 35 年度まで大規模校となる。 ・山田中と第一中の間には小松製作所や関西外大の敷地があり、迂回する必要がある。また、その際に一部の生徒は中宮中校区を通ることになる。 ・最長通学距離が 2.7km となる地区がある。 ・現状も同様であるが、一部の生徒が交通量の多い道路(杉田口禁野線)を横断して通学しなければならない。 ・校区が広く、中宮中校区が割り込むような校区形状となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状も同様であるが、一部の生徒が交通量の多い道路(杉田口禁野線)を横断して通学しなければならない。 ・山田中と招提中の間には穂谷川があり、5 本の橋が架かっているものの、地域を分断している。 ・一部の橋周辺の堤防は、人通りが少ない状況がある。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・中部Q-ア案は、当分の間、大規模校となることや通学路における課題がある。 ・中部P-ア案は、増築が必要となることや通学距離の課題がある。 ・中部R-ア案は、地形上の課題や防犯上の課題があるものの、通学距離や保有教室数の面から、総合的に最善の方策であると考えます。 		

・各適正化方策案について、6 ページの 5. (1) に示す 5 つの視点での比較・評価における「特に有効な点」及び「問題点など」を示すとともに、総合評価をとりまとめたものです。
 ・太枠は、適正化方策に選定した方策案を示します。

参考（学級数・児童数の将来推計）

（現行推計）

区分		H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H35	H40	H45	H50	H55
山田中	学級数 (CL)	8 (1)	10	11	11	10	10	10	9	6	6	6	6
	生徒数 (人)	235 (1)	312	348	358	348	361	362	280	224	189	177	153
招提中	学級数 (CL)	11 (2)	12	11	11	11	12	12	12	12	9	9	9
	生徒数 (人)	381 (9)	413	393	408	390	426	424	448	396	357	339	334

（統合後の推計）

区分		H27		H31	H32	H33	H35	H40	H45	H50	H55
統合校	学級数 (CL)	16 (2)		20	21	21	20	18	15	15	15
	生徒数 (人)	616 (10)		738	787	786	728	620	546	516	487

各学校及び統合校の児童生徒数・学級数の将来推計を示すものです。

- ・網掛けは、小規模校又は大規模校に該当することを示します。
- ・H27の欄の（ ）書きの数値は支援学級数及び支援学級の児童生徒数を示します。
- ・学級数及び児童生徒数は、平成33年度までは平成27年5月1日現在の幼児数・児童生徒数を基にした推計により、平成35年度以降は枚方市人口推計によるものです。

4－8. 中部（7）山田小学校・山田東小学校・山田中学校（小中一貫校）

適正化方策案の検証評価

方策案	中部 S (山田小と山田東小、交北小を統合)
	交北小・山田中に小中一貫校を設置する。
特に有効な点	<ul style="list-style-type: none"> ・交北小と山田中の配置を活かした小中一貫校（施設一体型）の設置が可能である。
課題点など	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 32 年度まで統合小学校は大規模校となる。 ・最長通学距離が 2.2km となる地区がある。 ・現状も同様であるが、一部の児童が交通量の多い道路（杉田口禁野線）を横断して通学しなければならない。 ・山田小校区の指定中学校が変更となる。 ・交北小は山田小から分離開校しており、学校の沿革から課題がある。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・山田小学校校区からの通学距離が長くなることや、山田小学校校区の指定中学校が変更となること、学校の沿革などの課題があるものの、山田中学校が適正規模となること及び交北小学校と山田中学校の学校配置を活かした小中一貫校（施設一体型）を設置することができる。 <p>このことから、小学校又は中学校ごとの適正化方策である山田小学校の中部G-ア案、山田東小学校のJ-ア案、山田中学校のR-ア案に対し、より適切な方策であると考えます。</p>

・各適正化方策案について、6 ページの 5. (1) に示す 5 つの視点での比較・評価における「特に有効な点」及び「課題点など」を示すとともに、総合評価をとりまとめたものです。

・太枠は、適正化方策に選定した方策案を示します。

参考（学級数・児童数の将来推計）

（現行推計）

区分		H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H35	H40	H45	H50	H55
山田小	学級数 (CL)	9 (3)	7	7	7	7	7	7	10	12	10	6	6
	児童数 (人)	230 (12)	209	203	203	200	194	183	243	245	222	187	160
山田東小	学級数 (CL)	12 (2)	11	10	10	8	7	8	10	7	6	6	6
	児童数 (人)	274 (6)	264	241	234	226	208	209	230	216	202	181	159
交北小	学級数 (CL)	15 (3)	15	15	15	14	13	13	12	6	6	6	6
	児童数 (人)	446 (15)	448	449	456	451	424	396	288	208	184	159	133

区分		H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H35	H40	H45	H50	H55
山田中	学級数 (CL)	8 (1)	10	11	11	10	10	10	9	6	6	6	6
	生徒数 (人)	235 (1)	312	348	358	348	361	362	280	224	189	177	153

（統合後の推計）

区分		H27			H31	H32	H33	H35	H40	H45	H50	H55
統合校 小学校	学級数 (CL)	29 (5)			27	25	25	24	22	18	18	16
	児童数 (人)	950 (33)			877	826	788	761	669	608	527	452

※山田小児童+山田東小児童+交北小児童数

（統合後の推計）

区分		H27			H31	H32	H33	H35	H40	H45	H50	H55
統合校 中学校	学級数 (CL)	11 (1)			12	13	13	12	9	9	9	6
	生徒数 (人)	387 (1)			451	467	466	385	348	305	282	239

※山田中生徒数+山田小校区の中学校生徒数

各学校及び統合校の児童生徒数・学級数の将来推計を示すものです。

- ・網掛けは、小規模校又は大規模校に該当することを示します。
- ・H27の欄の（ ）書きの数値は支援学級数及び支援学級の児童生徒数を示します。
- ・学級数及び児童生徒数は、平成33年度までは平成27年5月1日現在の幼児数・児童生徒数を基にした推計により、平成35年度以降は枚方市人口推計によるものです。

【南部ブロック】

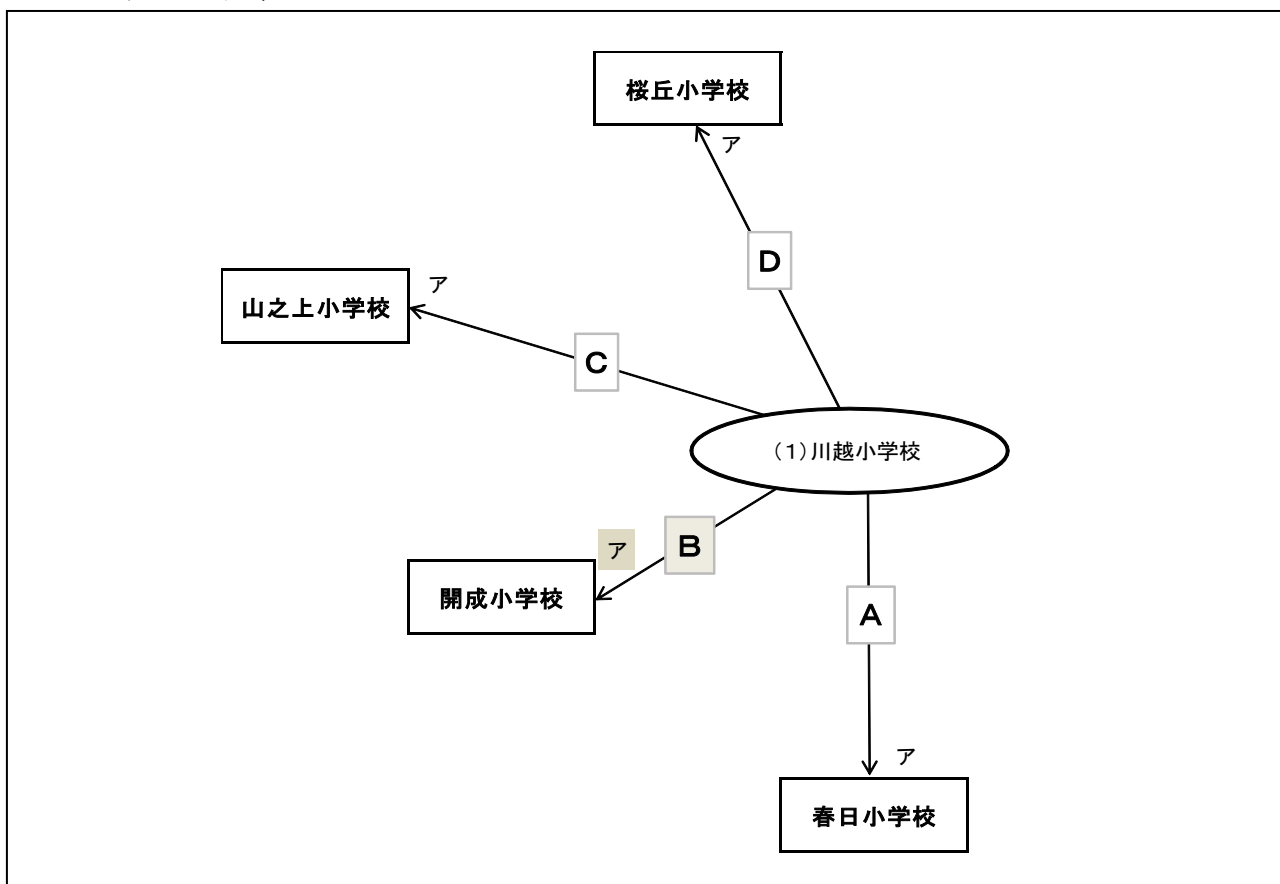
1. 適正化方策案

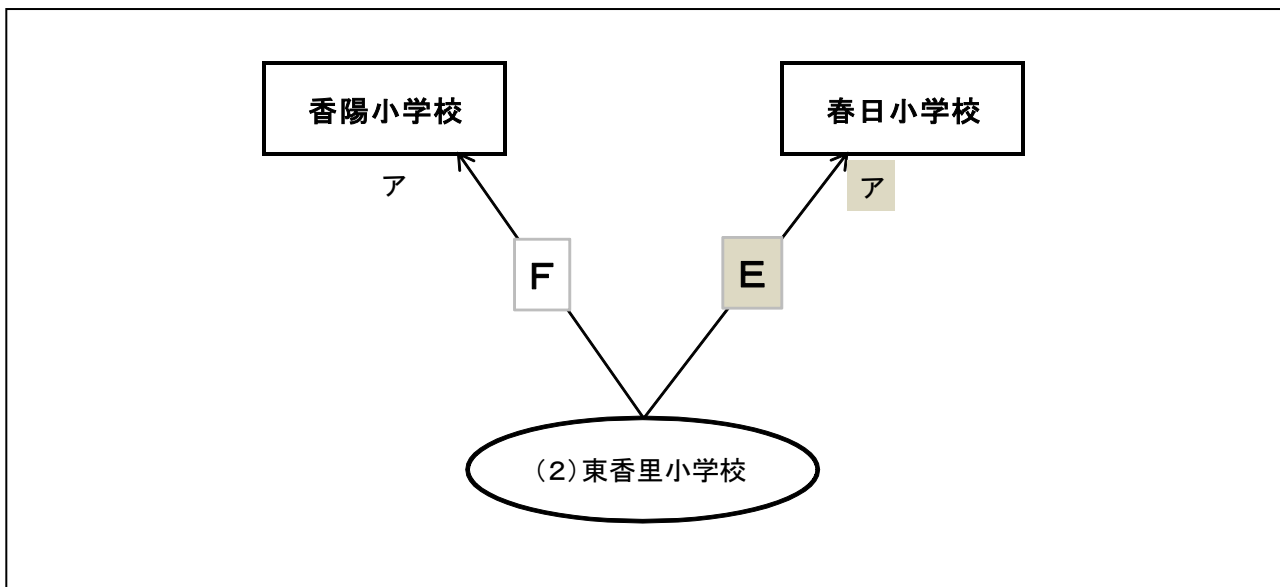
学校統合の 検討の対象校	方策 区分	方策案	備考
(1) 川越小学校	A	春日小学校と統合する。	
	ア	春日小学校敷地に統合校を設置する。	
	イ	(川越小学校敷地に統合校を設置する。)	* 検討除外
	B	開成小学校と統合する。	
	ア	開成小学校敷地に統合校を設置する。	
	イ	(川越小学校敷地に統合校を設置する。)	* 検討除外
	C	山之上小学校と統合する。	
	ア	山之上小学校敷地に統合校を設置する。	
	イ	(川越小学校敷地に統合校を設置する。)	* 検討除外
	D	桜丘小学校と統合する。	
	ア	桜丘小学校敷地に統合校を設置する。	
	イ	(川越小学校敷地に統合校を設置する。)	* 検討除外
(2) 東香里小学校	E	春日小学校と統合する。	
	ア	春日小学校敷地に統合校を設置する。	
	イ	(東香里小学校敷地に統合校を設置する。)	* 検討除外
	F	香陽小学校と統合する。	
	ア	香陽小学校敷地に統合校を設置する。	
	イ	(東香里小学校敷地に統合校を設置する。)	* 検討除外

学校統合の検討対象とした学校に隣接する学校を、統合の相手校として設定した方策案を示すものです。

- ・方策案毎に区分し、統合校をどちらの学校敷地に設置するかを、アまたはイで分類しています。
- ・統合の相手校が適正規模の学校である場合には、検討の対象の学校に統合校を設置 する方策案は検討除外としています。
- ・網掛けは、適正化方策に選定した方策案を示します。

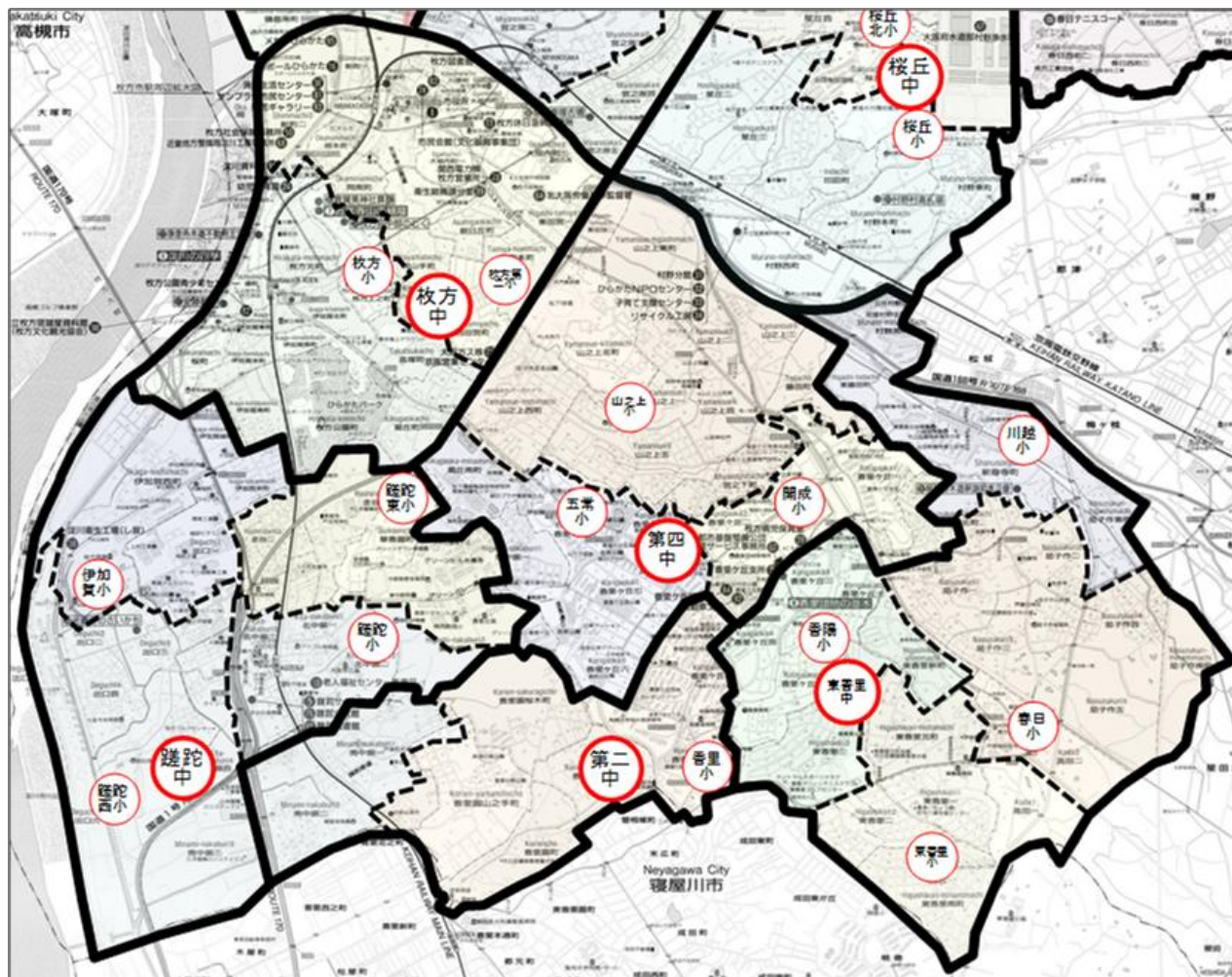
2. 適正化方策案解説図





- ・ ○で囲んだ学校は学校統合の検討の対象とした学校を示します。また、□で囲んだ学校は適正規模の学校を示します。
- ・ 矢印は統合校をどちらの学校敷地に設置するかを示します。
- ・ 記号の網掛けは、適正化方策に選定した方策案を示します。

3. 小中学校位置図



- 各ブロック内の小学校・中学校の位置と校区を地図に表示するものです。
- ・ 太い実線は中学校区、点線は小学校区を示します。

4-1. 南部（1）川越小学校 適正化方策案の検証評価

方策案	南部 A (春日小と統合)	南部 B (開成小と統合)	南部 C (山之上小と統合)	南部 D (桜丘小と統合)	【参考案】 方策 南部AB
	ア(統合校:春日小)	ア(統合校:開成小)	ア(統合校:山之上小)	ア(統合校:桜丘小)	
特に有効な点					・保有教室に余裕が有り、増改築の必要がない。
課題点など	<ul style="list-style-type: none"> ・保有教室が30教室しかなく、増築等が必要。(3教室程度) ・最長通学距離が2.6kmとなる地区がある。通学路の一部区間でバス通学の検討ができるが、低学年児童の適用には課題がある。 ・多くの地区で開成小の方が近い。 ・現状も同様であるが、一部の地区は天野川や交通量の多い府道を横断して通学しなければならない。 ・統合校の校区は歪な形状となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保有教室が30教室しかなく、増築等が必要。(1教室程度) ・最長通学距離が2.1kmとなる地区がある。 ・一部の地区は春日小・山之上小校区を通過して通学しなければならない。 ・現状も同様であるが、一部の地区は天野川や交通量の多い府道・市道を横断して通学しなければならない。 ・中学校通学区域の変更が必要である。中学校を第四中とした場合、同校は一時的に大規模校となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保有教室が28教室しかなく、増築等が必要。(5教室程度) ・最長通学距離が3.1kmとなる地区がある。通学路の一部区間でバス通学の検討ができるが、低学年児童の適用には課題がある。 ・一部の地区は春日小・開成小校区を通過して通学しなければならない。 ・現状も同様であるが、一部の地区は天野川や交通量の多い府道・市道を横断して通学しなければならない。 ・統合校の校区は歪な形状となる。 ・中学校通学区域の変更が必要である。中学校を第四中とした場合、同校は一時的に大規模校となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・統合校は平成35年度まで大規模校となる。 ・保有教室が27教室しかなく、増築等が必要。(8教室程度) ・最長通学距離が2.7kmとなる地区がある。 ・一部、他市の区域を通過して通学することが合理的な地区がある。 ・一部の地区は天野川や京阪電鉄交野線、交通量の多い府道を横断して通学しなければならない。 ・統合校の校区は歪な形状となる。 ・中学校通学区域の変更が必要である。また、変更により平成25年度までの指定中学校に戻る地区がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一部の地区は山之上小校区を通過して通学しなければならない。 ・現状も同様であるが、一部の地区は天野川や交通量の多い府道・市道を横断して通学しなければならない。 ・中学校通学区域の変更が必要である。また、同中学校は一時的に大規模校となる。 ・コミュニティを分断する。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・各方策とも課題が多い中、南部A-ア案・B-ア案はやや課題が少ない。 ・A-ア案とB-ア案を比較すると、B-ア案はA-ア案に比べて通学距離や保有教室数、校区の形状等の点において課題の度合いは低いことから、総合的に有効な方策であると考えられる。 <p>(参考案の評価は省略)</p>				

- ・各適正化方策案について、6ページの5.(1)に示す5つの視点での比較・評価における「特に有効な点」及び「課題点など」を示すとともに、総合評価をとりまとめたものです。
- ・太枠は、適正化方策に選定した方策案を示します。

参考（学級数・児童数の将来推計）

（現行推計）

区分		H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H35	H40	H45	H50	H55
川越小	学級数 (CL)	12 (2)	12	11	10	9	9	8	10	6	6	6	6
	児童数 (人)	312 (9)	298	271	250	231	224	206	228	209	190	164	136
開成小	学級数 (CL)	19 (4)	19	17	17	17	16	15	12	12	10	12	12
	児童数 (人)	610 (21)	601	550	525	489	450	404	312	243	275	307	293

（統合後の推計）

区分		H27		H31	H32	H33	H35	H40	H45	H50	H55
統合校	学級数 (CL)	27 (5)		22	21	20	18	16	16	16	12
	児童数 (人)	922 (30)		720	674	610	540	452	465	471	429

各学校及び統合校の児童生徒数・学級数の将来推計を示すものです。

- ・網掛けは、小規模校又は大規模校に該当することを示します。
- ・H27の欄の（ ）書きの数値は支援学級数及び支援学級の児童生徒数を示します。
- ・学級数及び児童生徒数は、平成33年度までは平成27年5月1日現在の幼児数・児童生徒数を基にした推計により、平成35年度以降は枚方市人口推計によるものです。

4-2. 南部（2）東香里小学校 適正化方策案の検証評価

方策案	南部 E (春日小と統合)	南部 F (香陽小と統合)
	ア (統合校：春日小)	ア (統合校：香陽小)
特に有効な点		
課題点など	<ul style="list-style-type: none"> ・保有教室が 30 教室しかなく、増築等が必要。 (2 教室程度) ・一部の地区で香陽小の方が近い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保有教室が 21 教室しかなく、増築等が必要。 (9 教室程度) ・最長通学距離が 2.1km となる地区がある。 ・春日小の方が近い地区が多い。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・両方策とも課題は少ないが、南部E-ア案は不足する教室数が少なく、通学距離の課題がない等の点が有効である。 ・東香里小学校は来年度以降に小規模校となる見込みであるが、平成 31 年度及び 35・40 年度に、一旦適正規模になると予測されるため、今後の児童数・学級数の推移を見定めながら、統合時期を判断することが適切である。 	

・各適正化方策案について、6 ページの 5. (1) に示す 5 つの視点での比較・評価における「特に有効な点」及び「問題点など」を示すとともに、総合評価をとりまとめたものです。

・太枠は、適正化方策に選定した方策案を示します。

参考（学級数・児童数の将来推計）

(現行推計)

		H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H35	H40	H45	H50	H55
東香里小	学級数 (CL)	12 (1)	11	10	11	12	11	11	12	12	10	7	6
	児童数 (人)	285 (3)	276	275	275	298	278	267	279	255	237	215	193
春日小	学級数 (CL)	19 (4)	18	17	18	18	17	16	18	12	12	12	12
	児童数 (人)	562 (19)	571	566	570	540	507	492	458	406	378	359	332

(統合後の推計)

		H27		H31	H32	H33	H35	H40	H45	H50	H55
統合校	学級数 (CL)	26 (4)		24	23	23	24	21	18	18	18
	児童数 (人)	847 (22)		838	785	759	737	661	615	574	525

各学校及び統合校の児童生徒数・学級数の将来推計を示すものです。

- ・網掛けは、小規模校又は大規模校に該当することを示します。
- ・H27 の欄の () 書きの数値は支援学級数及び支援学級の児童生徒数を示します。
- ・学級数及び児童生徒数は、平成 33 年度までは平成 27 年 5 月 1 日現在の幼児数・児童生徒数を基にした推計により、平成 35 年度以降は枚方市人口推計によるものです。